

# スバルタカス 書簡

訳

中村丈夫

山崎カヲル

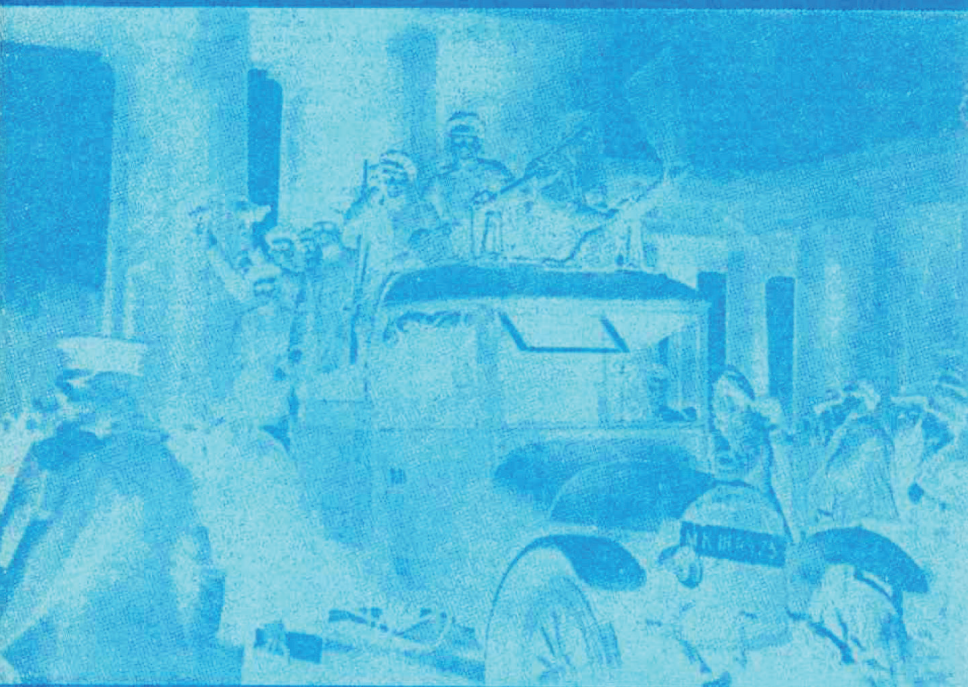
船戸満之

鹿砦社



# スパルタガス

## 書簡



訳— 中村丈夫・山崎カヲル・船戸満之

鹿砦社



★スパルタクス第一号

11

ロードス島

13

リープクネヒト

19

国際社会民主主義者の信条

23

リープクネヒト訴訟記録から

23

政治と批判

30

宰相ベートマン・ホルヴェークの全国協議会

30

小さな誤解

34

楽屋裏での自白

37

全国から

39

★スパルタクス第二号

45

カール・リープクネヒトへ

47

ゲスラーの帽子

48

古い豎琴ではなく、新しい剣を！

56

党全国協議会の決算

61

政治と批判

64

緊急警報

64

「十分な擁護」

66

世迷い言の末路

67

大ベルリン連合会総会前の『フォアヴェルツ』強弁

68

密告者欄

78



★スパルタクス第三号 ————— 81

ひとつの欺瞞 ————— 83

踊れ、ポーランド人よ、踊れ、ドイツ人よ…… ————— 85

平和と仲裁条約 ————— 89

眠れる大きな力 ————— 93

「私は疑わない！」 ————— 96

政治と批判 ————— 98

議会のクレチン病 ————— 98

選挙の考察 ————— 100

ヴュルテンベルク州の選挙 ————— 104

★スパルタクス第四号 ————— 113

社会主義の新しいウァーテルロー ————— 115

飢えのまえで ————— 119

ロシアにおける革命 ————— 122

ウイルソンの社会主義 ————— 126

政治と批判 ————— 131

戦時公債と戦時資本主義 ————— 131

紋章の桶 ————— 134

取ってこい！ シャイデマン ————— 137

全国から ————— 140

★スパルタクス第五号

大ロシア革命

145

143

もぐらじいさん

145

ロシア革命の記録文献

152

1 兵士への呼びかけ

152

2 ベテルスブルグの労働者代表評議会最初の呼びかけ

155

3 権力の組織

157

4 労働再開

158

5 八時間労働

161

6 労働者代表評議会と皇帝

162

7 労働者代表評議会と軍隊

163

8 講和問題

164

168

二つの復活祭教書

173

★スパルタクス第六号

179

焦眉の時局問題

181

1 戦争と平和

181

2 プロレタリアートの独裁

185

3 ストックホルム

188

4 二者択一

193

悲劇風の茶番劇

197

フランツ・メーリング ストックホルム会議について

209

205

★スパルタクス第七号

211

211

|                        |     |
|------------------------|-----|
| 放棄された転換期               | 214 |
| 教皇からハーゼへ               | 218 |
| さらし台の上で                | 226 |
| 政治と批判                  | 233 |
| ひとつの数詞                 | 233 |
| 常に信徒に従って               | 235 |
| ドイツ軍兵士への呼びかけ           | 238 |
| ★スバルタクス第八号             | 239 |
| 歴史の解答                  | 241 |
| そして今や                  | 246 |
| Kの図式に従うことなく            | 249 |
| 進学試験                   | 253 |
| ★スバルタクス第九号             | 257 |
| 破局が近づいている              | 259 |
| 運命に対する問い               | 263 |
| ロシア在留ポーランド社会民主主義者の呼びかけ | 267 |
| ドイツの解放者                | 268 |
| 「偉大な時代」からの記録           | 269 |
| 奴隷を求めて                 | 271 |
| 商工条例第一五三条の廃止について       | 273 |



★スバルタクス第一〇号 275

四年たって 277

発送日の若干の遅れ 281

警告的な一例 283

ヘンカーと同志たち 285

虚殺が準備されている 288

★スバルタクス第一号 291

帝国主義の破産 293

ロシアの悲劇 297

★スバルタクス第一二号 305

国際情勢の結節点 307

小ラフアイエツト 310

講和条約 314

スバルタクス・グループの全国会議 316

訳註

319

訳者あとがき 331

制作中

訳者あとがき

本書は、すでに伝説化している『スパルタクス書簡』の全訳である。それが、第一次世界大戦中におけるドイツの革命的左翼の最大の闘争記録であることについては、説明するまでもないであろう。

底本としたのは、Spartakusbriefe, hrsg. von der KPD (Spartakusbund), 1920. である。『スパルタクス書簡』は、第二次世界大戦前に何回か版をあらためて刊行されているが、これはそのもっとも古いもののひとつに属する。戦後には、ドイツ社会主義統一党中央委員会付属マルクス・レーニン主義研究所が編集した新版が出ている (Spartakusbriefe, hrsg. von IML / ZKdSEPD, 1958)。

ML研究所版には、『スパルタクス書簡』だけではなく、その前身である『政治書簡』(Politische Briefe)も収録されている。ただし、この版は数年前から絶版となっており、今回の訳出にあたっては参照することができなかった。部分的には、Dokumente und Materialien zur Geschichte der deutschen Arbeiterbewegung, hrsg. von IML/ZKdSEPD, 1958 ff. を利用した。ドイツ語以外で書簡が全号刊行されたものは、これまでないようである。わが国では、『ローザ・ルクセンブルク選集』などに収録された論文以外には、京都の Res Novare グループが書簡の第一号―第三号を刊行されており、参照させていただいた。

われわれがいま、もはや歴史的文献に属する『スパルタクス書簡』の刊行を試みたのは、挫折に終わったドイツ革命五〇周年を記念しローザ・ルクセンブルクとカール・リープクネヒトの生誕百年を記念することがあまりにも薄い、昨今の風潮を嘆いたからではない。それは懐古趣味に類するであろう。また、第一次世界大戦とヴェトナム―インドシナ戦争とを重ねあわせて、反戦―革命の闘志をあらためてふるいたせたいからでもない。それならばむしろ、ロシア革命とレーニンについて学びなおすべきであろう。いま『スパルタクス書簡』から汲みとらなくてはならないのは、帝国主義国での革命的左翼が、文字どおりの革命の大衆自身の自立的直接的行動とふかく結合して、どのように革命の主体を形成するかの方法であろう。それは、諸書

簡のうちにならずしもポジティブに啓示されているわけではない。むしろ、ドイツ革命の主体が「スバルタクス・ブント」の理念と「労働共同体」アルバイツゲマインシャフト左派、「革命的オプロイテ」の実践とに分岐せざるをえなかった——それらがまがりなりにも統合されるのは、一九二〇年一月二月のドイツ共産党（スバルタクス・ブント）と独立社会民主党左派の合同「ドイツ統一共産党の結成」においてである——悲劇的必然性は、大戦中にすでに色濃くあらわれている。さらには、統一戦線戦術の先駆的实践と一九二三年一〇月の破綻、左派の敗北とスターリン主義化、反ファシズム統一戦線の失敗と根底的壊滅、そして第二次世界大戦後の東ドイツ官僚主義と西ドイツ改良主義との分立とみてゆくと、われわれがそこからもっとも教訓を得ることができるドイツ左翼史の原点は、まさにスバルタクス・ブントの内包する矛盾のうちにとらえなくてはならないであろう。

その矛盾のいわばひだの一つひとつは、諸書簡のうちにひそんでいる。われわれをはじめ、諸書簡にくわえて、「国際社会民主党の任務にかんする指針」、「スバルタクス・ブント綱領」（「スバルタクス・ブント」はなにを欲するか）、「ドイツ共産党綱領」（創立大会採択）などの指標的文書を付録として収める予定であったが、紙数の関係で割愛せざるをえなかった。だが、これらのいわば乾いた文書がなくとも、いやかえってない方が、「半メンシエヴィキ的誤謬」等々の既成概念によって裁断するのではなく、生きた情勢との緊張的関連のもとに革命的左翼



の悪戦苦闘を感得することができないのではないか、とあえて心をなぐさめている。読者諸氏の読むための努力を僭越ながらお願いしたい。

これを機としてわれわれは今後、比較的未紹介のドイツの革命的左翼の文献を提供してゆきたいと念願している。

翻訳については、第一号、第二号を中村、第三号―第五号を船戸、第六号―第一二号を山崎がそれぞれ分担した。

この歴史的文書が、眇たる一書肆から刊行されることは、われわれの欣快とするところであり、読者諸氏の鹿砦社へのいっそうの御後援を期待してやまない。

一九七一年六月一五日

訳者代表 中村丈夫

スバルタクス書簡

発行日

昭和四六年七月一〇日 第一刷

訳者

中村丈夫 山崎カヲル 船戸満之

定価

一〇〇〇円

発行者

天野洋一

発行所

鹿野社◎

東京都千代田区神田駿河台三一一

電話〇三一二九三―九八二一

郵便番号一〇〇〇

振替東京一六二六六

印刷所  
東洋印刷株式会社

装幀

登芳子

訳者の了解により検印廃止  
落丁・乱丁は本社でお取り替えいたします。